

時速1200キロの超高速スピードで走り抜けるカメ

そのカメはリニアモーターカーに対し「ふっ」と不適な笑みを浮かべた後、猛烈な加速度で前方に消え去った！！

これはヤヴァイ

先日、中央高速道路を時速110キロ前後で巡航中、バックミラーをみると音を立てずに近づいてくる物体があることに気づいた。それは深緑色の物体で、私の愛車ポルシェにひたすらくっついてくる。しかも音がないだけに殊更不気味だ。☒

まぢやられる

その時である。あおられるようにパッシングをされ、振り返るがHID以上にまぶしい光がバックミラーに写り込む。気が付くと私のカレラも時速300キロを超えているが、全く引き離せる様相がない。しかも、もう少しで後方バンパーに当たるほどぴったりとくっついている。これはまずい。危険だ。☒

これがあのカメか？

よくみると、深緑色した物体は従来のクルマの形ではなく、甲羅を背負ったカメのような形をしている。驚いた私は目を凝らしてミラーをのぞくと、カメの頭らしきものがあり、目のあたりからまぶしい光線が放たれている。カメは遅いとバカにされていた時代もあったが、その汚名を返上するために水面下で新型のカメが造られているという噂を聞いたことがある。もしかするとこれが伝説のカメなのか。☒

度肝を抜かれたウサギ株式会社

モータースポーツ黎明期からモータースポーツに積極的に参戦している自動車メーカー、株式会社ウサギに問い合わせたところ、「聞いたことがない。何かの間違いでは」と動揺を隠せない。ところが、リニアモーターカーを制作中のJP東海によると、リニアモーターカーによる時速600kmでの試験走行中、カメの形をした物体が猛烈な速度で抜いていった、という報告が発表されている。これが本当ならば独自のV12エンジンで世界のレースを総なめにしている「USAGI」が「謎のカメ」に王座を奪われる可能性が出てきた。☒

🔒 対抗策は？

このカメのスペックは定かではないが、JP東海によると、「試験運転中のビデオで見える限り、時速600キロで走行していたリニアモーターカーの約2倍の速さ」という試算も出ている。地上でこれだけ早く走れるクルマを造る場合、ジェットエンジンを搭載したクルマでなければならない。まさに「音速を超えたカメ」、不気味な加速度を増して我々に迫ってきている。☒